

◆入稿データが正常に開けるかどうか

A-1 各データの名前(フォルダ名・ファイル名)について

- ・文字数制限と使用不可能文字

入稿データの名前(フォルダ名・ファイル名)は、半角31文字以下で作成してください。
また、下記については各データの名称に使用不可能な文字列となっています。

・フォルダ名

/¥:*?"<>|#[]%&~

連続したピリオド 例 : te.....st

最後のピリオド 例 : test.

先頭のピリオド 例 :.test

先頭、最後の全角スペースは削除されます。

・ファイル名

/¥:*?"<>|#[]%&~

連続したピリオド 例 : te.....st

最後のピリオド 例 : test.

先頭のピリオド 例 :.test

A-2 MACユーザー様は拡張子を付けてください。(弊社はWindows環境です。)

拡張子とは、ファイル名のうち「.doc」や「.xls」などピリオドで区切られた右側部分のことです。

Windowsは拡張子でファイルの種類を判断します。ファイルを開く際、OSはファイルの拡張子からファイルの種類を判断し、関連づけられたアプリケーションを起動してファイルを開きます。

そのため拡張子がないと、ファイル形式不明とエラー表示され、ファイルを開く事ができません。

Macintoshでは通常拡張子を必要としませんが、弊社 (Windows環境) へデータをご入稿の際は、ファイルを作成する際に適切な拡張子をつけるいただく必要があります。

A-3 入稿データ形式(ai指定)について

原則、入稿データ(印刷データ・カットデータ)はIllustrator(ai形式)で作成、入稿してください。

※但し、Illustratorで入稿できない場合でも、他のソフトや注文内容などの条件次第では対応可能な場合もあります。

また、データ作成からお受けしている商品もございます。(別途お見積が必要です。)

Illustratorが使用できない場合でも、念のため一度ご相談ください。

A-4 ご注文内容別 必要なデータ一式詳細について

・印刷加工のみの場合

印刷データ(片面or両面分)

リンク画像データ(埋め込み済、又は配置画像無の場合を除く)

仕上がりイメージ画像(スクリーンショット)

・カット加工のみの場合(但し印刷物支給でカット加工のみ発注の場合を除く)

カットデータ

リンク画像データ

・印刷+カット加工の場合(但し印刷物支給でカット加工のみ発注の場合を含む)

印刷データ(片面or両面分)

カットデータ

リンク画像データ(埋め込み済、又は配置画像無の場合を除く)

仕上がりイメージ画像(スクリーンショット)

A-5 仕上がりイメージ画像(スクリーンショット)について

印刷加工のご注文の際、必須ではありませんが、トラブルを避けるためにスクリーンショット(仕上りのイメージ画像)の添付をお願いしております。

こちらはデータチェック時に仕上りの参考とさせていただきます。但し、こちらをもとに細部までのチェックや文字校正は行いません。あくまでも文字抜け、画像抜け等の体裁の確認として使用しますので、お客様の作成画面をできるだけ大きく撮影願います。

A-6 スクリーンショット撮影方法

スクリーンショット作成方法(Windows)

- 1) 入稿用の最終完全データを、作成されたアプリケーションで開きます。
- 2) 全画面表示にして、各種ツールボックスなどでデザインデータが隠れない状態にし、尚且つできるだけ大きく全体が見えるよう倍率を調整してください。
- 3) キーボードの右上あたり(機種によって異なります)にある「Print Screen」というボタンを押すとWindowsのメモリに保存されます。(この時点では音も何もありません。またファイルが生成されているわけでもありません。)
- 4) スタート>プログラム>アクセサリ の中に「ペイント」というアプリケーションがあります。それを起動してください。(Photoshopやその他画像編集ソフトをお持ちであればそれでも構いません。)
- 5) そのアプリケーションの編集メニュー、もしくは右クリックで表示されるサブメニューから「貼り付け」を選択してください。
そのアプリケーションに先程の作業画面がペースト(貼付)されます。
- 6) その画像データに「スクリーンショット表」などの名前をつけ、bmpかjpg形式で保存してください。

スクリーンショット作成方法(Macintosh)

- 1) 入稿用の最終完全データを、作成されたアプリケーションで開きます。
- 2) 全画面表示にして、各種ツールボックスなどでデザインデータが隠れない状態にし、尚且つできるだけ大きく全体が見えるよう倍率を調整してください。
- 3) キーボードのショートカット(コマンド+シフト+3)を押すと、「バシヤ」という音が鳴ります。
※(コマンド+シフト+4)を押すと、カーソルが十字に変わるので、撮りたいところをドラッグして囲むと、その範囲だけを撮ることができます。
- 4) 画像データのファイルが次の通り作成されます。
 - ・MacOS9.xでは、起動ディスクの第1階層に保存されています。
「スクリーン1」などのpictファイルが作成されます。
 - ・MacOS10.4以前では、デスクトップに保存されます。
「スクリーン1」などのPDFファイルが作成されます。
 - ・MacOS10.4以降もデスクトップに保存されます。
「ピクチャ1.png」などのファイルが作成されます。

※両面印刷をご注文の場合などは、レイアウトファイル(スクリーンショット)を表面と裏面の2種類とも添付願います。
(「スクリーン表」、「スクリーン裏」のようなファイル名に変更してください。)

A-7 リンク画像について

最もよくあるトラブル原因の1つに、使用している画像データのリンク切れがあります。Illustratorで配置された画像のリンクが切れている状態で入稿されてしまうケースです。このままですと、もちろん画像が抜けたままの状態です。

必ず配置したリンク画像を同じファイルに格納した状態で、圧縮してからご入稿ください。

A-8 リンク切れの確認方法

Illustratorのリンクパレット内、配置画像名の横に「はてな(?)」マークが出ていないか確認してください。「はてな(?)」マークが表示されている画像はリンクが切れた状態です。リンクを再設定、又は更新作業をしてください。(→A-7参照)

※△と□のマークは埋め込みの状態です。リンク画像の埋め込み処理をすればリンク切れの危険はなくなりますが、リンク画像の大きさや数量によってはファイル自体の容量が大きくなり、オンラインでの入稿が困難になる場合がありますので、リンク画像の使用状況に応じてご検討ください。

A-9 配置画像の埋め込みとリンクについて

配置した画像を埋め込むと、画像次第ではIllustratorのファイルの容量が非常に大きくなります。その代わりに、使用した画像ファイルは、Illustratorファイルと一体化するので、リンク切れの心配はなくなります。また、レイアウト画面での表示が非常に精度の高い状態になります。

※Illustratorファイルに画像を埋め込む機能は、Illustrator7.0J以降から使用できます。画像を配置する場合は、ファイルメニュー>配置 を選択してください。

逆に、画像を配置する際に「リンク」のチェックボックスをオンにした場合は、Illustratorファイルと一体化はしません。画面に見えているのはあくまでもレイアウト用プレビューであり(大抵の場合画像が粗く表示されます)、実体は画像ファイルです。

この場合、その画像ファイルを別のフォルダなどに移動しただけで、Illustratorファイルは『リンク画像が見つかりません』とエラーを出します。そのかわり、Illustratorファイルの容量は小さいままです。ただし、出力する際には常に「Illustratorファイル+画像ファイル」のセットの状態にしておかなければなりません。

A-10 修正した配置画像などのリンクの再設定や更新作業について

修正を加えた画像ファイルを、Illustratorファイルへ更新するには、埋め込みの場合オプションメニュー>リンクを再設定 を選択することで行えます。

リンクを使って配置した場合は、自動的に更新するかどうかをIllustratorが促してくれます。また、オプションメニュー>リンクを更新 を選択することで手動の更新も行えます。

いずれの場合もIllustratorファイル上で更新した後は、必ず上書き保存する必要があります。

A-11 画像解像度について

解像度(dpi)は、デジタル画像のきめの細かさ(画質)を指しています。よく間違われる例として、インターネットで美しく見えている画像をそのまま印刷にも使えると思い、そのままの画質で印刷データに使用される方が見受けられます。しかし、WEB用の画像は72dpiでスクリーン解像度といい、モニタ表示には最適な解像度で美しく表示されていますが、それをそのまま印刷してしまうと画質が粗すぎて、大変見づらい仕上がりとなってしまいます。(低すぎる解像度ではイラストの境界線などにジャギー(ギザギザな状態)が発生したりします。)

印刷に使用される画像解像度は、350~400dpi程度を目安としてください。逆に高すぎる解像度の画像を使用してデータを作成されても、データの容量を大きくするだけで印刷の品質向上にはほとんど影響しませんので、ご注意ください。

A-12 入稿データのレイヤー分け詳細について

入稿データのレイヤー分けは、印刷機、レーザー加工機に正しく、迅速に指示を出すために必要な作業です。

特に印刷加工とカット加工を併用する場合には、レイヤーによって印刷部分とカット部分にデータが分けられていない場合、印刷機やレーザー加工機が誤認識・誤作動を起こす大きな原因となります。(例:カットラインも印刷してしまう、印刷線もカット加工してしまう、など)

また、不要なレイヤー、使用していないレイヤーは必ず削除してください。この場合も誤認識・誤作動を起こす大きな原因となります。

・印刷加工のみの場合のレイヤーの分け方

レイヤー1…ガイドや注意書き等(印刷されない部分)
レイヤー2…印刷データ
(レイヤー3以降…必要に応じて使用してください。)

・カット加工のみの場合のレイヤーの分け方

レイヤー1…ガイドや注意書き等(カットされない部分)
レイヤー2…ハーフカットデータ(ハーフカット加工有の場合)
レイヤー3…カットデータ
(レイヤー以降…必要に応じて使用してください。)

・印刷加工+カット加工の場合のレイヤーの分け方

レイヤー1…ガイドや注意書き等(印刷・カットされない部分)
レイヤー2…印刷データ
レイヤー3…ハーフカットデータ(ハーフカット加工有の場合)
レイヤー4…カットデータ
(レイヤー以降…必要に応じて使用してください。)

A-13 密集且つ複雑なカットデータのレイヤー分けについて

密集したレーザーカットをしたい場合は、レーザー照射熱の発生による紙の変形をできるだけ抑えてカットする必要があります。そのためにはカットの順番や場所を細かく分けて段階的にカットする方法が効果的です。
データ上で隣接するデータをそれぞれ別のレイヤーに分けて作成していただくと仕上がりがより綺麗にカットできます。

密集、且つ複雑なカットの場合、複数(4~5個位)のレイヤーに分けてデータを作成し、レイヤーごとにカット加工を進めていくことが望ましく、美しい仕上がりにつながります。

A-14 補助レイヤー機能の禁止について

補助レイヤー機能は便利な機能ですが、レーザー加工機が認識できない機能となっています。誤作動の原因となりますので、必ず別レイヤーとして設定し、補助レイヤーは使用しないでください。

A-15 ファイル圧縮形式の Windows ・ Macintosh の互換について

ファイル圧縮形式で主流なのは、MacではStuffit形式(.sit)、Windowsではlzh形式、又はzip形式がよく使われます。

弊社はWindows環境のため、MacとWindowsの双方で解凍可能なlzh形式、zip形式での圧縮をお願いしております。

主な圧縮・解凍ソフトには「+Lhasa」(Windows)や「Stuffit Expander」(Mac)等があります。
自動解凍形式はOSを越えると解凍できない可能性が高いため、使用されません様お願いします。

※Macユーザー様は、圧縮時にMacBinaryのチェックを必ずはずしてから圧縮していただけますようお願いいたします。

圧縮する際は、必要なファイル(作成データ、リンク画像など)がすべて揃っているかご確認の上、1つのフォルダにまとめて圧縮をしてください。

(その際、弊社でのデータチェック用「スクリーンショット(キャプチャ)」もフォルダに入れてください。)

A-16 データの圧縮方法

データの圧縮方法(Windows)

フォルダに名前をつけ(半角英数字31文字以内)、その中に作成データ、配置画像、スクリーンショット、注意事項があればそのテキストファイルなどを1つにまとめて入れて、圧縮してください。

・WindowsXP・Vista・7の場合

標準でzip形式での圧縮が可能です。

入稿フォルダを右クリックし、送る>圧縮(ZIP形式)フォルダ を選択してください。

圧縮することで、ファイル送信時の破損の確率をかなり抑えられます。

・WindowsXP・Vista・7以外のOSの方、又は上記を使用されない場合

「WinZIP」「+Lhaca」で圧縮してください。

上記で1つにまとめて作成したフォルダを圧縮ソフトにドラッグ & ドロップしてください。

圧縮ソフトはWindowsでは「+Lhaca(ラカ)」「フリーウェア」が標準的に使用されています。

圧縮が完了すると「.lzh」形式の圧縮ファイルが生成されます。

※「+Lhaca」はこちら <http://park8.wakwak.com/~app/Lhaca/>

データの圧縮方法(Macintosh)

フォルダに名前をつけ(半角英数字31文字以内)、その中に作成データ、配置画像、スクリーンショット、注意事項があればそのテキストファイルなどを1つにまとめて入れて、圧縮してください。

・MacOSXの場合

標準でzip形式での圧縮が可能です。

「control」+クリックで「任意のファイル名」を圧縮を選択します。

圧縮することで、ファイル送信時の破損の確率をかなり抑えられます。

・MacOS9の場合

上記で1つにまとめて作成したフォルダを圧縮ソフトにドラッグ & ドロップしてください。

圧縮ソフトはMacであれば「Aladdin DropStuff(ドロップスタッフ)」「シェアウェア」が標準的に使用されています。また「MacLha」も広く使われています。

※「Aladdin DropStuff」はMac OS 9にプリインストールされています。

Aladdin DropStuffの場所

/Applications(Mac OS 9)/インターネットユーティリティ/Aladdin Dropstuff and Expander

/Aladdin DropStuff 5.5J/DropStuff